

## 令和4年度第3回真の幸せ（ウェルビーイング）戦略プロジェクトチーム議事要旨

日時：令和4年12月20日（火）14:00~16:00

場所：富山県庁4階大会議室（一部オンライン）

### 議事(1) 令和4年度成長戦略アクションプランの推進・検証について（資料1）

#### （事務局説明）

- ・ 令和4年度成長戦略アクションプランに掲げた各事業の進捗状況などを説明
  - ①県庁内外に対するウェルビーイングの普及啓発の取組状況。また、ウェブサイト開設及びイベント開催に向けた準備の進捗状況
  - ②働き方改革・女性活躍のホームページの公開状況
  - ③とやま子育てイメージアップ事業において、動画を作成・公開したこと、大型ショッピングセンターでファミリーサポートセンターのイベントを開催したこと
  - ④成長戦略カンファレンスの開催実績
  - ⑤クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した地域おこし協力隊の事業への資金調達の実施

#### （委員の主な意見）

- ・ 女性活躍のホームページについては、事例を掲載した後が重要。県がSNSなどで広報を展開し、掲載された企業もこのことをPRし、また、県がその企業PRを広報するといったように、県と企業の双方が並走して循環するような広報を行うと、ほかの企業も巻き込んでいけないか。
- ・ 女性活躍のホームページについて、女性活躍と男性育休は切り離せないと思うので、女性の活躍だけではなく、企業の男性育休の取得促進についても進めていけばよいと感じた。
- ・ 子育てイメージアップ動画について、効果測定をしっかりと行うとよいのではないか。子育て支援を使った方に何を見てその支援を知ったのかということ把握すると、動画を作ったことへの成果も見えるし、今後、どの施策を続けていくかの判断軸にもなると思う。
- ・ 子育てイメージアップ動画について、動画の最後にQRコードとかランディングページへの誘導を入れて、感想を言うとか、資料請求を行うとか、どこからの導線だったか簡単なアンケートに答えてもらう、といった取組みを行うとよいのではないか。
- ・ 戦略の策定はさることながら、それを実施するかどうか重要なので、取組みを行っている企業を動画やSNSなども活用してどう広めていくかが重要。  
また、戦略を誰が評価するのかというときに私たちに欠けているのが子ども・若者からの視点。この会議にも子ども・若者がいないが、その視点は重要。子ども・若者がこの戦略、成果について、どう感じ、どう評価するのかということが、これからの取りまとめの際にどこかに入ってくるとすばらしいと思った。
- ・ 成長戦略カンファレンスについて、前回と比較して参加者数はどうだったのか、また、初参加・リピーター、県外・県内など参加者の属性がどうだったのかわかれば関心度が見えてきていいと思う。

- ・ 地域おこし協力隊について、各自治体向けの募集マニュアルを作られたのは手厚い支援がされていると思った。今後は、隊員向けのマニュアルや受け入れ自治体向けのマニュアルも作成したらよいと感じた。

また、隊員の相談窓口も大事だけど、隊員とOB/OGが交流する場ももっと増えて行くといいのではないか。

- ・ 地域おこし協力隊の富山県の定着率が全国より高いのであれば、それをPRしてはどうか。
- ・ 地域おこし協力隊のクラウドファンディングについては告知が少ないのではないかと。例えば、女性活躍のホームページにリンクを張るとか、成長戦略会議の委員の方のフェイスブックなどで発信してもらおうとかしたほうがよいのではないかと。また、有名な方から寄附をいただいたら、その方のSNSに県からお礼をし、そこから広げるといこともやってみてはどうか。
- ・ 地域おこし協力隊インターンが始まっている。全国の多くの学生に富山県に来てもらえば、子ども・若者の視点からもウェルビーイングに向かっていくと思うので、これについても検討してはどうか。

## 議事(2) 令和5年度ウェルビーイング戦略における施策の検討について (資料2)

### (事務局説明)

- ・ 今後のスケジュールについて、1月に3回目の少子化対策・子育て支援専門部会の開催を予定していること、本会合の第4回については、今回の会合において大きな方向性について一定の意見の集約ができた場合は、書面による開催も視野に入れていること等を説明
- ・ 第1回、第2回会議の振り返り、ウェルビーイング戦略のKPIと令和5年度の重点的な取り組みについて説明
- ・ 委員からの提案等を受けて作成した「県民のウェルビーイングの向上、多様性の促進に向けた具体的な施策案」、「女性のウェルビーイングの向上、働き方改革・「ワーク・イン・ライフ」の推進に向けた具体的な施策案」について説明
- ・ 富山県ウェルビーイング指標の策定について報告

### (委員の主な意見)

- ・ ウェルビーイングの指標なるものを富山県オリジナルで開発し、継続して数値を取ることで県民全体のウェルビーイングの向上につなげていく考えは、非常に良い。
- ・ ウェルビーイング指標を取りまとめるにあたって、業者に丸投げするのではなく、県職員が自ら汗を流し知恵を絞ってまとめられたこと自体が素晴らしい。その過程でウェルビーイングに関する造詣・理解が深まったのではないかと。

また、指標自体も色分けしたり、地元の言葉を使ったりして本当に分かりやすい。地元の言葉を使うと広がりやすいと思う。

今後は、とにかく目にする機会を増やす、継続的に続けていくことが大事。

- ・ ウェルビーイング指標について、ボリュームは多かったが内容はすばらしく、なるほどと思った。お花の形で自己表現するというのはすばらしいアイデア。お花をつくるのは子ども達でも分かりやすい。例えば、学校で月に1回、今月の花を咲かせてみようとするくらい日常化するとい

いと感じた。

- ・ 「ウェルビーイング・デー」は取組みの認知や行動促進にいいアイデアだと思うが、プレミアムフライデーのように形骸化しないように注意が必要。
- ・ インスタでウェルビーイングのアカウントを作って、これまでホームページで紹介していた取組みを1個目から順に紹介してほしい。高校生とか若い子を取り込むためにはインスタは必要。
- ・ ウェルビーイングの子どもへの浸透について、絵本や子供の夏休みの絵画コンクールなどももちろんよいのだけど、[ひろがれ！いろとりどり] SDGs 17目標のおぼえうたの様に、音楽で聞くことで覚えるというの也不错だと思った。
- ・ ウェルビーイングには客観的なものと主観的なものがある。客観的なウェルビーイングは、富山をはじめ北陸地方は全国トップクラス、主観的なウェルビーイングは全国でも真ん中よりちょっと下。これは、都会のほうがいろいろな生き方が許容されやすいからだと思う。人生にはいろんな選択肢があって、どれを選んでも、どれを自己決定しても価値があると、もしかしたら地方のほうが思いにくくて、そこら辺の改善が大事。
- ・ 女子中高生と女性管理職との交流とあるが、何も女性管理職に限らなくてもよいのではないかな。女子中高生は、ドラマに出てくるような格好良くて生き生きと働く女性に憧れを持つと思うので、女性管理職に限らず、自分らしく自分のスタイルで働いている女性との交流ができるとよい。
- ・ 女性活躍の施策に企業の交流の場をつくるとか、専門コンサルを入れるとか、女子中高生と管理職との交流とかがあり、どれもいいアイデアではあるが、その前に担当者や管理職ではなく、各企業の社長がウェルビーイングが重要だということを認識しないと話が進まない。

各企業の社長に必ず参加してもらってセミナーなどで、リクルーティングがうまくいくとか、業績が拡大するとか、男性が育休を取ることで実が業績がよくなる、といったことを知らせることが一番効くと思う。

まず富山の企業のトップの意識を変える、変わらないといけないと思った企業が例えば学生に説明会を行う、こんないい企業があるとわかって学生が富山に留まるということにつながるのではないかなと思う。

- ・ 女性活躍、子育て支援のところで、選ばれる県になりたいとのことであったが、選ばれるということは比較の話になる。満遍なくいろいろな施策をやるというのは選ばれるトリガーがないという状況になるので、平均値は達成したうえで富山らしいユニークな何かを作っていたほしい。
- ・ 男性育休については、夫婦一緒に考えることが大事。妊娠中に信頼を寄せる場所の一つに産婦人科があるので、産婦人科の先生から夫婦に対して男性育休の必要性を話していただく機会を設けるとか、パパママ教室で男性育休について話をさせていただくとか、医療機関とタッグを組んで男性育休をとる必要性を夫婦で共に感じられるような取組みを加えてはどうか。
- ・ 男性が育休を取るより、1時間でも2時間でも早く帰ってきて育児や家事をしてくれるほうが助かることもあるので、男性の育休だけではなく、男性の短時間勤務という言葉も入れてほしい。
- ・ 社会で子育て女性を応援している地域が選ばれている傾向があると思う。社会で子どもを育てるときに必要なのが「助けて」と言える環境。いろいろな人にそれを発信できるか、その勇気を持てるかという地域の空気感づくりが重要。

富山県民は「助けて」というのがとても苦手。県の施策を使った人、手を挙げた人が格好いいという事例の紹介や見せ方をすることで、県の施策が使われるし、つながりが生まれて社会みんなが助けていこうという空気になると思うので、そのあたりを県の取組みに取り入れてはどうか。